



7/7(金) ファミリープログラム開催

19:00～ 大村中学校体育館



PTA 地区評議員の方々を中心となり、地域の方々、保護者、学校職員併せて50名が集まり、大村市社会教育課より派遣していただいたファシリテーター(導き役)の進行にもとづき、ワークショップを行いました。ファミリープログラムは参加者が子どもとの接し方、子どもの理解、親子のコミュニケーションなどについて話し合いやワークを進める中で学びを深める参加型のプログラムです。

ワークの中で、大村中学校の保護者同士の仲の良さや、生徒たちの挨拶の良さや行事に熱心に取り組む姿勢などが話題となり、これからも、保護者、地域の皆様、教職員で大切にしていきたいという思いを共有できる機会となりました。

7月は「青少年の非行・被害防止全国強調月間」です。長崎県では「ココロねっこ運動」強調月間として、子育て支援を推進する県独自の県民運動の期間ということもあり、ファミリープログラムをとおして、地域の方と一緒に子どもたちのことを一緒に考えることができました。準備をしてくださった地区評議員の皆様、参加してくださった皆様、ありがとうございました。

7月・11月は「ココロねっこ運動」強調月間です

ココロねっこ運動は、子どもの心の根っこを育てるために、大人のあり方を見直し、みんなで子どもを育てる県民運動です。

～大人みんなで子どもの心を育てましょう! 「あいさつします。わたしから!」～



7月・11月は「ココロねっこ運動」強調月間です



親の責任で携帯電話を持たせるときは、子どもたちを守るためにフィルタリングを必ずしましょう。

○就寝2時間前にスマホ、タブレット等の電子映像画面から離れることが睡眠、脳科学、依存症の研究者等から推奨されています。



7/9(日) 社会を明るくする運動 さくらホール

中学・高校生弁論大会 優秀賞受賞

社会を明るくする運動～犯罪や非行を防止し、立ち直りを支える地域のチカラ～はすべての国民が、犯罪や非行の防止と犯罪や非行をした人たちの更生について理解を深め、力を合わせて明るい地域社会を築くための運動です。大村市内、東彼杵町内の中学生・高校生が独自の視点で考えた社会をよくしていくための意見を発表しました。本校からは、弁士岩永龍斗さん、応援者池田巧さん(3年生)が発表し、見事優秀賞を受賞しました。

次ページに岩永さんの発表内容を掲載しているので、ぜひ御覧ください。弁士、応援者ともに堂々とした態度で、熱い思いが会場にいる人にしっかりと伝わっていました。



応援者

弁士

弁士紹介

同調性と協調性

大村中学校 3年6組 岩永 龍斗

みなさんは、学校や会社で、あるいは家庭や友達同士の会話の中で、自分の考えを言えなかったり、周りに合わせてしまったりしたことはありませんか。なぜ、自分の意見が言えないのでしょうか。なぜ周りの意見と合わせてしまうのでしょうか。僕はこの問題に、日本人の同調性と協調性という二つの性質が関係していると思います。

例えば、学校でこんな場面がよくあります。文化祭で何をするのかを学級会で話し合う時、二つの案が出ました。一つは焼きそば、もう一つはカレーで、どちらかを選ばなければなりません。A君は焼きそばを選ぶつもりでしたが、B君、C君、D君がカレーを選んだのでカレーを選んでしまいました。A君は周りに合わせて、自分の考えを変えてしまったのです。

このように、周りの人に合わせて自分の考えを変えてしまうようなことを同調圧力と言います。同調圧力は同調性の高さが原因で起こります。必要以上に他人と合わせてしまうことで、周りに流されやすくなってしまふのです。

小学生の時、クラスでいじめられている女の子がいました。最初はそこまで酷いものではなかったのですが、徐々にいじめっ子の人数が増えていきました。いじめは酷さを増していき、その女の子の表情はとても暗いものになってしまいました。なぜ、いじめっ子が徐々に増えていったのでしょうか？それはきっと、「周りがやっているから自分も」「自分もやらないといじめられるかもしれない」と思って、周りに合わせてしまい、流されてしまったからだと思います。考え方や価値観が違う人を、「同じでないとおかしい」と攻撃してしまう。いけないことだと思いつつも、「みんなやっているから」とやってしまう。それが同調性の恐ろしさです。

一方で、「周りがやっているから自分も」という同調性が、良い方向に進む場合もあります。その場合、「同調性」は「協調性」と言い換えることができます。東日

本大震災で多くの建物が流され、ボロボロになった東北の町は、多くの人の支えがあって今も復興に向けた努力が続いています。極限状態の中にあっても、皆が冷静に秩序だって行動したその姿は、世界中から称賛されました。今年三月、野球のWBCでも、優勝した日本チームは「まるで高校野球のチームのようだ」と言われるほどまとまっていて、一人一人が持っている以上の力を出しているように見えました。

僕自身も、「協調性」の力を実感する出来事がありました。それは、今年五月に行われた体育大会です。僕たちのブロック集団は周りのブロック集団と比べて人数が少なく、声の大きさや動きの迫力が大きな要素となる種目で不利な状況にありました。それでもその状況が逆に僕たちの心をひとつにまとめてくれました。「人数は少ないけど、絶対に負けない」と団結力が高まった僕たちは、集団演技のソーラン節でセンターポジションを獲り、全体でもブロック準優勝を果たしました。「協調性」が困難を乗り越える大きな力になると改めて知りました。

僕には、夢があります。それは、「挑戦し続ける人生」にすることです。今まで生きてきた中で、僕は九州外に出たことが一回しかありません。しかも、その一回は修学旅行です。もっと広い世界をこの目で見て、自分の可能性を広げていきたい。自分の知らないことを知りたいし、自分にできないことをできるようにになりたい。そう思っています。もしかしたら、この夢も反対されることがあるかもしれません。普通の、安定した人生の方が楽なのかも知れません。でも、たった一度きりの自分の人生。周りに合わせて後悔するよりも、自分の意志を貫く方がカッコいいし、他人の意見に流されてしまったら、後悔してしまうと思います。

みなさんには、夢がありますか？もし、周りに反対されて、諦めそうになっている人がいたら、「一緒に夢に向かって頑張ろう」と僕は言いたい。一緒に頑張っている人がいると思えることが、僕のエネルギーにもなります。「協調性」の強みと、「同調性」に流されない強さをもった人に僕はなりたいです。

※7月4日に行われた「がん教育講話」のようすを大村中学校サイトの“活動のようす”に掲載しています。ぜひ御覧ください。

大村中学校サイト URL <https://www.city.omura.nagasaki.jp/kyoiku/kyoiku/shiritsugakko/naka/omura/>